

運送事業者様向け

車輪脱落事故ゼロに向けた取り組みのお願い



大型車の車輪脱落事故の増加を受け、国土交通省より脱落事故防止に向けた緊急対策の通達が展開され、ブリヂストンでも車輪脱落防止に向けたメンテナンスを徹底して行っています。

輸送事業者様におかれましても、事故を起こさない為に、

①増し締め ②日常点検 等の徹底したお取り組みをお願い致します。

大型車の車輪脱落事故 発生状況と要因

●車輪脱落件数の推移

出典：国土交通省 '19年11月15日リリース

「ボルトの錆や左後輪に注意！車輪脱落事故3年連続増加【厳しい状況】」

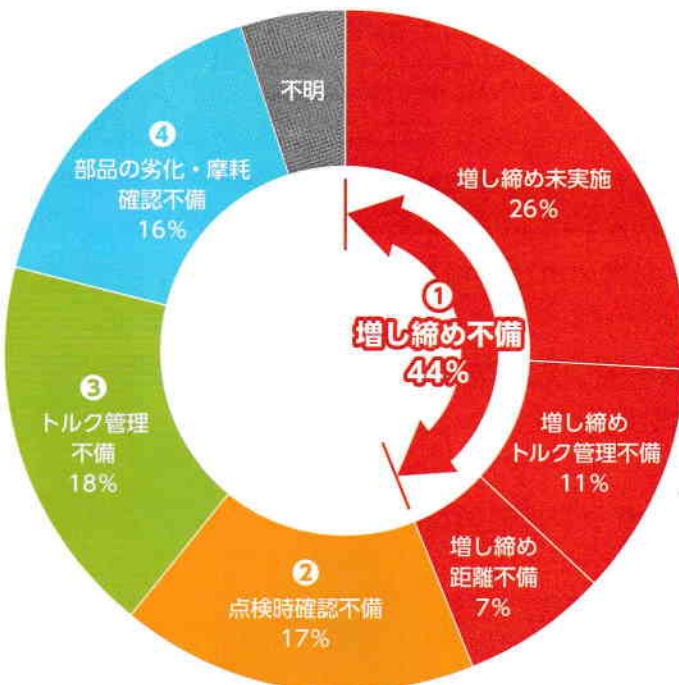


■車輪脱落事故による代表的な事故の例

日	場所	事故の概要
2008年 4月	静岡県 高速道	◆脱落した車輪が対向車線の観光バスに衝突。バス運転手が死亡、乗客7人負傷。 ◆ドライバーに実刑、会社役員に罰金
2016年 9月	岐阜県 高速道	◆脱落した車輪が後続のトラックに衝突。運転手が意識不明の重体。 ◆カーディーラーの整備士、会社役員、ドライバーを書類送検

●2018年の脱落要因（国土交通省分析結果）

N=176（脱落事故87件について複数の要因をカウント）



■車輪脱落事故防止のための4つのポイント

国土交通省～大型車の車輪脱落防止のための「令和元年度 緊急対策」～

①タイヤ交換後、50～100km 走行後の増し締めの実施

ナットの締め付け後は走行による初期なじみによりナットの締め付け力が低下。50～100km 走行後を目安に増し締めを行う。

②日常（運行前）点検による確認

運行前にホイール、ボルト、ナットを目で見ても、さわって、点検ハンマーでナットをたたいて点検する。異常を発見したらすぐ整備工場へ。

③ホイール・ナットの規定トルクでの確実な締め付け

インパクトレンチを用いてナットを締めつける際は、締め過ぎに注意し、最後にトルクレンチ等を使用して規定トルクで締め付ける。

④ホイールに適合したボルト及びナットの使用 また、ボルト、ナット、ホイールの適切な清掃と点検

サビた部品では、適正なナットの締め付け力が得られない為、清掃・点検を徹底する。サビが著しい場合は部品の交換が必要。

国土交通省から通達の『脱落事故防止のための4つのポイント』を確実に実施する事が重要です。特に『増し締め』を適正に行うことで、車輪脱落事故の防止に効果があります。

ナットの『増し締め』の必要性について、裏面をご覧ください▶▶▶